



成果指標				
成果指標	交通安全施設設置箇所数(修繕含む)			
指標設定の考え方	安全な交通網の構築という観点から、交通安全施設の設置数を成果指標とする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	55	59	65	0
実績	53	66	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	本来であれば、道路上において最も優先されるのは歩行者であり、交差点等、目視の困難な場所であっても車両等は一時停止、徐行運転により、歩行者の安全が確保されるべきであるが、現実に照らし合わせた上で、歩行者の安全を確保するには、道路反射鏡の設置が欠かせない。その上で、必要性、緊急性を速やかに判断して、状況に応じた適切な対応が重要である。また、既存の交通安全施設の適切な維持管理に取組み、事故防止に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	地元からの要望に対し必要性や緊急性の検討を行い計画的な施設整備及び適切な維持管理に努める。当事業は交通安全対策特別交付金を活用しているため、市道での施設整備としている。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題